

令和 2 年 度

広島中央環境衛生組合一般会計
歳入歳出決算審査意見書

広島中央環境衛生組合監査委員

広中環監第19号

令和3年10月27日

広島中央環境衛生組合

管理者 高垣 廣徳 様

広島中央環境衛生組合監査委員 水戸 晃

同 玉川 雅彦

同 水橋 直行

決算審査意見について

地方自治法第233条第2項の規定により、審査に付された令和2年度広島中央環境衛生組合一般会計歳入歳出決算及びその他政令で定められた書類について審査を終了したので、次のとおり意見を提出する。

目 次

一般会計歳入歳出決算状況審査意見	頁
第1 審査の基準	1
第2 審査の種類	1
第3 審査の対象	1
第4 審査の期間	1
第5 審査の着眼点、評価項目	1
第6 審査の実施内容	1
第7 審査の結果	1
1 決算の概況	3
(1) 決算の概要	3
(2) 性質別歳出の状況	3
2 歳入	4
(1) 歳入の概要	4
(2) 款別歳入の状況	5
3 歳出	7
(1) 歳出の概要	7
(2) 款別歳出の状況	8
4 財産に関する調書	10
(1) 土地	10
(2) 建物	10
(3) 物品	10
5 おわりに	11

- 注) 1 文中の金額及び各表中の金額は、原則として千円単位で表示し、各数値ごとに単位未満は四捨五入した。ただし、一部四捨五入によらない箇所がある。
- 2 比率は、原則として小数点第2位を四捨五入し、調整のうえ表示した。
- 3 文中のポイントとは、パーセンテージ間の単純差引数値である。

令和2年度広島中央環境衛生組合 一般会計歳入歳出決算状況審査意見

第1 審査の基準

この決算審査は広島中央環境衛生組合監査委員監査基準に準拠して実施した。

第2 審査の種類

地方自治法第233条第2項の規定に基づく決算審査

第3 審査の対象

令和2年度広島中央環境衛生組合一般会計歳入歳出決算

令和2年度広島中央環境衛生組合一般会計歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書

第4 審査の期間

令和3年9月2日から令和3年10月8日まで

第5 審査の着眼点、評価項目

上記の広島中央環境衛生組合一般会計歳入歳出決算書及びその附属書類は法令に適合して作成されているか、計数は正確であるか、かつ、予算の執行は適正であるか。

第6 審査の実施内容

管理者から送付された広島中央環境衛生組合一般会計歳入歳出決算書及びその附属書類の内容を関係諸帳簿及び証書類等と照合することにより審査した。また、予算の執行状況については、例月出納検査の結果等を参考とし、必要に応じて関係職員から説明を聴取した。

第7 審査の結果

第1から第6に掲げる事項のとおり審査した限りにおいて、令和2年度の広島中央環境衛生組合一般会計歳入歳出決算書及びその附属書類は、いずれも法令に適合して作成されており、かつ、それらの計数は関係諸帳簿等と符合し、正確であるとともに、予算の執行はおおむね適正であることを認めた。

なお、歳入歳出決算の状況及び審査意見は、次のとおりである。

1 決算の概況

(1) 決算の概要

当年度の決算額は、予算現額 241 億 2,117 万 3 千円に対し、

歳入 185 億 2,604 万 2 千円 (前年度 59 億 1,145 万 7 千円)

歳出 177 億 2,377 万 8 千円 (前年度 59 億 859 万 7 千円)

で、歳入歳出差引額形式収支は 8 億 226 万 4 千円となっており、翌年度への繰越額は 8 億 226 万 4 千円、実質収支は 0 円である。

これを前年度と比較すると、

歳入が 126 億 1,458 万 5 千円 (213.4%)

歳出が 118 億 1,518 万 1 千円 (200.0%)

それぞれ増加している。

この主な要因は、歳入では、国庫支出金及び組合債の増加によるものである。また、歳出では、広島中央エコパークの整備に係る費用が増加したことによるものである。

(2) 性質別歳出の状況

当年度の歳出を性質別に分類すると、次のとおりである。

[決算審査資料 4 頁参照]

ア 義務的経費 (人件費、扶助費、公債費)

当年度は 3 億 7,444 万 3 千円 (構成比 2.1%) で、前年度より 5,496 万 7 千円 (△12.8%) 減少しており、構成比は 5.2 ポイント減少している。

この主な要因は、人件費が 567 万 1 千円 (4.8%) 増加したものの、公債費が 6,079 万 3 千円 (△19.6%) 減少したことによるものである。

イ 投資的経費 (普通建設事業費)

当年度は 153 億 63 万 2 千円 (構成比 86.3%) で、前年度より 121 億 9,698 万 1 千円 (393%) 増加し、構成比で 33.8 ポイント上回っている。

この主な要因は、広島中央エコパーク施設建設工事に係る支出によ

り普通建設事業費が大幅に増加したことによるものである。

ウ その他の行政経費（物件費、維持補修費、補助費等）

当年度は 20 億 4,870 万 3 千円（構成比 11.6%）で、前年度より 3 億 2,683 万 3 千円（13.8%）減少し、構成比は 28.6 ポイント下回っている。

この主な要因は、賀茂環境センターの最終処分場 2 工区被覆設備等移設を令和元年度に実施し、令和 2 年度に実施しなかったことで維持補修費が減少したこと等によるものである。

2 歳入

（1）歳入の概要

決算額は、予算現額 241 億 2,117 万 3 千円に対し、

調 定 額	202 億 1,342 万 3 千円	（対予算比 83.8%）
収 入 済 額	185 億 2,604 万 2 千円	（対調定比 91.7%）
不 納 欠 損 額	0 千円	
収 入 未 済 額	16 億 8,738 万 1 千円	（対調定比 8.3%）

である。

[決算審査資料 2 頁参照]

当年度の収入済額は 185 億 2,604 万 2 千円で、その内訳は、

分担金及び負担金	34 億 2,793 万 7 千円	（構成比 18.5%）
使用料及び手数料	2,949 万 6 千円	（構成比 0.2%）
国庫支出金	50 億 7,243 万 8 千円	（構成比 27.4%）
繰越金	286 万円	（構成比 0.0%）
諸 収 入	4,421 万 1 千円	（構成比 0.2%）
組 合 債	99 億 4,910 万円	（構成比 53.7%）

である。

収入済額を前年度と比較すると、126 億 1,458 万 5 千円（213.4%）増加している。

この主な要因は、

使用料及び手数料 が 198 万 1 千円 (△ 6.3%)

繰越金 が 2 億 8,341 万 1 千円 (△99.0%)

諸収入 が 1,963 万 6 千円 (△30.8%)

減少したものの、

分担金及び負担金 が 6 億 7,031 万 6 千円 (24.3%)

国庫支出金 が 42 億 4,959 万 7 千円 (516.5%)

組合債 が 79 億 9,970 万円 (410.4%)

増加したことによるものである。

(2) 款別歳入の状況

歳入の款の状況は、次のとおりである。

ア 分担金及び負担金

組合構成市町からの負担金の当年度の収入済額は 34 億 2,793 万 7 千円で、その内訳は、

東広島市負担金 21 億 3,551 万円 (構成比 62.3%)

竹原市負担金 4 億 558 万円 (構成比 11.8%)

大崎上島町負担金 8 億 8,684 万 7 千円 (構成比 25.9%)

である。

収入済額を前年度と比較すると、6 億 7,031 万 6 千円 (24.3%) 増加している。

この主な要因は、

竹原市負担金 が 3,024 万 1 千円 (△6.9%)

減少したものの、

東広島市負担金 が 4,998 万 1 千円 (2.4%)

大崎上島町負担金 が 6 億 5,057 万 6 千円 (275.4%)

それぞれ増加したことによるものである。

イ 使用料及び手数料

当年度の収入済額は 2,949 万 6 千円で、その内訳は、

廃棄物処理施設等使用料	2,840万5千円（構成比 96.3%）
多目的広場施設利用に係る使用料	108万9千円（構成比 3.7%）
公文書の写し等の交付手数料	2千円（構成比 0.0%）

である。

収入済額を前年度と比較すると、198万1千円（△6.3%）減少している。

ウ 国庫支出金

当年度の収入済額は50億7,243万8千円で、高効率ごみ発電施設建設及び汚泥再生処理センター建設に係る循環型社会形成推進交付金の交付を受けたものである。

収入済額を前年度と比較すると、42億4,959万7千円（516.5%）増加している。

エ 諸収入

当年度の収入済額は4,421万1千円で、その内訳は、

有価物売払収入	3,887万9千円（構成比 87.9%）
光熱水費立替収入	24万3千円（構成比 0.6%）
使用済小型電子機器等売払収入	118万6千円（構成比 2.7%）
再商品化合理化拠出金	14万6千円（構成比 0.3%）
ペットボトル有償入札拠出金	373万円（構成比 8.4%）

等である。

収入済額を前年度と比較すると、1,963万6千円（△30.8%）減少している。

この主な要因は、使用済小型電子機器等売払収入が増加したものの、有価物売払収入、ペットボトル有償入札拠出金及び東広島市派遣職員負担金が減少したことによるものである。

オ 組合債

当年度の収入済額は99億4,910万円で、その内訳は、

一般廃棄物処理事業債 33億3,720万円（構成比 33.5%）
防災・減災・国土強靱化緊急対策事業債 66億1,190万円（構成比 66.5%）
である。

それぞれ高効率ごみ発電施設建設及び汚泥再生処理センター建設に係る資金の借入れによるものである。

収入済額を前年度と比較すると、79億9,970万円（410.4%）増加している。

3 歳 出

(1) 歳出の概要

決算額は、予算現額 241億2,117万3千円に対し、

支 出 済 額 177億2,377万8千円（執行率 73.5%）

翌年度繰越額 63億3,684万5千円（対予算比 26.3%）

不 用 額 6,055万円（対予算比 0.2%）

である。

[決算審査資料 3 頁参照]

支出済額 177億2,377万8千円の内訳は、

議 会 費 65万2千円（構成比 0.0%）

総 務 費 7,797万2千円（構成比 0.4%）

衛 生 費 173億9,535万3千円（構成比 98.2%）

公 債 費 2億4,980万1千円（構成比 1.4%）

予 備 費 0千円（構成比 0.0%）

である。

支出済額を前年度と比較すると、118億1,518万1千円（200.0%）増加している。

これは、

議 会 費 が 88万7千円（△57.6%）

総 務 費 が 1,483万3千円（△16.0%）

公 債 費 が 6,079万3千円（△19.6%）

それぞれ減少したものの、

衛生費が 118 億 9,169 万 4 千円 (216.1%)
増加したことによるものである。

(2) 款別歳出の状況

歳出の款の状況は、次のとおりである。

ア 議会費

当年度の支出済額は 65 万 2 千円で、組合議会議員に対する報酬等である。

支出済額を前年度と比較すると、88 万 7 千円 (△57.6%) 減少している。

この主な要因は、新型コロナウイルス感染拡大により先進地視察を実施しなかったことによる費用弁償及び普通旅費が減少したことによるものである。

イ 総務費

当年度の支出済額は 7,797 万 2 千円で、その内訳は、

総務管理費	7,765 万 1 千円	(構成比 99.6%)
監査委員費	32 万 1 千円	(構成比 0.4%)

である。

主に、組合の総務管理費、監査委員費における報酬及び人件費（負担金を含む）に係る経費である。

支出済額を前年度と比較すると、1,483 万 3 千円 (△16.0%) 減少している。

この主な要因は、東広島市への職員の派遣が解除され人員が減少したため給与等が減少したことや大容量ケーブルテレビ高速回線導入が令和元年度に完了したことにより委託料が減少し

給料	が	317 万 6 千円	(△20.1%)
職員手当等	が	271 万 9 千円	(△17.2%)
共済費	が	107 万 4 千円	(△21.7%)

委 託 料 が 552 万 2 千円 (△77.9%)

負担金、補助金及び交付金 が 253 万 8 千円 (△6.0%)

減少したこと等によるものである。

ウ 衛生費

当年度の支出済額は 173 億 9,535 万 3 千円で、その内訳は、

賀茂環境衛生センター費 9 億 9,448 万 6 千円 (構成比 5.7%)

賀茂環境センター費 4 億 164 万 7 千円 (構成比 2.3%)

安芸津クリーンセンター費 5,030 万 1 千円 (構成比 0.3%)

竹原安芸津環境センター費 2 億 884 万 7 千円 (構成比 1.2%)

竹原安芸津最終処分場費 1 億 3,767 万 4 千円 (構成比 0.8%)

竹原クリーンセンター費 6,643 万 4 千円 (構成比 0.4%)

大崎上島環境センター費 1 億 7,695 万 2 千円 (構成比 1.0%)

大崎上島クリーンセンター費 6,959 万 5 千円 (構成比 0.4%)

施設整備費 152 億 8,941 万 6 千円 (構成比 87.9%)

である。

これらは、組合構成市町の可燃ごみ、不燃ごみ、し尿の処理施設管理運営等に係る経費及び新施設整備に係る経費である。

支出済額を前年度と比較すると、118 億 9,169 万 4 千円 (216.1%) 増加している。

この主な要因は、修繕料の減少等により

賀茂環境衛生センター費 が 7,440 万 5 千円 (△ 7.0%)

竹原安芸津環境センター費 が 8,317 万 3 千円 (△28.5%)

工事請負費の減少等により

賀茂環境センター費 が 1 億 304 万 6 千円 (△20.4%)

それぞれ減少しているが、

広島中央エコパークに係る高効率ごみ発電施設建設及び汚泥再生処理センター建設の委託料及び工事請負費の増加等により

施設整備費 が 120 億 9,077 万 5 千円 (378.0%)

それぞれ増加したことによるものである。

エ 公債費

当年度の支出済額は 2 億 4,980 万 1 千円で、その内訳は、

元 金 の 償 還 2 億 4,090 万 5 千円（構成比 96.4%）

利 子 の 支 払 い 889 万 6 千円（構成比 3.6%）

である。

支出済額を前年度と比較すると、6,079 万 3 千円（△19.6%）減少している。

この主な要因は、賀茂環境センター及び竹原安芸津環境センターの起債のうち、令和元年度中に償還が終了したものがあり、減少したものである。

オ 予備費

当年度の予備費充当額は 0 千円である。

4 財産に関する調書

財産の当年度末現在高は、次のとおりである。

[歳入歳出決算書 44～46 頁]

(1) 土地

土地の当年度末現在高は、57 万 5,550.24 m²で、前年度末現在高と比較して 983 m²減少している。

この要因は、広島中央エコパークの建設に伴い建設された水道施設の敷地を東広島市水道局へ譲渡したためである。

(2) 建物

建物の当年度末現在高は、6 万 1,200.33 m²で、前年度末現在高と比較して増減はない。

(3) 物品

工事作業機器に係るものの当年度末現在高は 10 台で、前年度末現在

高と比較して増減はない。

船舶車両に係るものの当年度末現在高は車両 9 台で、前年度末現在高と比較して増減はない。

5 おわりに

当年度においては、前年度と同様に広島中央エコパーク整備事業の推進及び現有施設の適切な維持管理運営を実施するための予算編成が行われ、その執行に努められたところである。

当年度の決算をみると、一般会計予算現額 241 億 2,117 万 3 千円に対し歳入が 185 億 2,604 万 2 千円、歳出が 177 億 2,377 万 8 千円で、歳入歳出差引額は 8 億 226 万 4 千円となっており、翌年度への繰越額は 8 億 226 万 4 千円、実質収支額は 0 円となっている。

また、不用額は 6,055 万円で予算現額の 0.2% であり、前年度と比べ 1.1 ポイント減少している。

当年度の決算において特筆すべき点は、広島中央エコパークの稼働に向けて高効率ごみ発電施設建設工事及び汚泥再生処理センター建設工事の費用が予算の大部分を占めていたところである。

地方自治法の要請により、地方公共団体は「最少の経費で最大の効果を挙げる」こととされており、今後も適切に事務処理をされたい。